

ロシア（バルト海沿岸湖沼流域）における 湖沼流域ガバナンスとジェンダーをめぐる情報収集

1. 概要

2008年8月11日から8月16日にかけてロシア（バルト海沿岸湖沼流域）地域とストックホルム市において開催された世界水週間において、湖沼流域ガバナンスにおけるジェンダーをめぐる情報収集を行った。ロシア（バルト海沿岸湖沼流域）においては、サンクトペテルブルグ市、プスコフ市、ノヴゴロド市の研究機関等の訪問と関係者との面会を通して当該地域の湖沼流域における女性の役割を中心に情報を収集した。また、2008年8月17日から22日にかけては、スウェーデン国ストックホルム市において開催された世界水週間に参加し、2008年が国際世界衛生年（Year of Sanitation）であったことに関して開催されたセッションに参加し、水資源の管理、保全、衛生環境の充実における女性が果たす役割及び今後の課題などについて情報収集を行い、参加者らへのインタビューを行った。

以下に、サンクトペテルブルグ市を中心とするロシア国での情報収集とストックホルム世界水週間における情報収集とインタビューの活動結果の詳細報告を行う。



http://www.welt-atlas.de/map_of_northern_europe_0-9004

2. 目的

湖沼流域ガバナンスとジェンダーをめぐる課題を問う前に、まず湖沼流域管理活動における女性の立場や役割に焦点を当てて情報収集を行う。そこから見えてくる事象をジェンダーの視点を通して分析し、女性の果たす役割について考察する。そして、今後湖沼流域とガバナンスという大きな枠組みの中で、ジェンダーをめぐる課題をどのように組み入れていくべきかその方向性を探る。

3. 情報収集の訪問者

1) サンクトペテルブルグ市

訪問日：2008年8月11日
訪問先：Zoological Institute of
Russian Academy of Sciences (RAS)
面会者：Oleg N. PUGACHEV (Director)

所属研究者数は約200名、バイカル湖



近くに独自の研究所も保有している。また、極東地域にある多くの研究所の所管となっており、Pan-Russian の中心的存在の研究所である。主な財源はロシア・バルト海連盟 (Baltic Sea Russian Federation) およびロシア教育省からである。基礎科学 (分類学等) 分野の研究が活動の中心としている。

訪問日 : 2008 年 8 月 11 日

訪問先 : Institute of Limnology of Russian Academy of Sciences (RAS)

面会者 : Dr. Sergey A. KONDRATYEV (Deputy Director), Prof. Irina S. TRIFONOVA (Deputy Director)

1944 年設立で、現在約 100 名が職員として所属している。4 つの主要研究部門 - Hydrology、Geography、Hydrochemistry、Hydrobiology があり、特にラドガ湖についての研究が盛んに行っている。例会 (Annual Conference) を毎年開催しているが、内水及び陸水管理についての論議が中心で、市民参加や女性の参加、環境教育などの社会文化的側面の問題についての議論は少ない。

訪問日 : 2008 年 8 月 12 日

訪問先 : Ministry of Natural Resources, Russian Federation, ECOLOGY & BUSINESS、St. Petersburg Public Organization

面会者 : Dr. Leonid K. KOROVIN (General Director) と他主要スタッフ 3 名

1992 年に設立された NGO であり、ヘルシンキ委員会 (Helsinki Commission, HELCOM) が持つ 6 つの調査研究グループの活動に準じて、モニタリング・アセスメント、土地・海洋汚染、自然保護・沿岸域管理、戦略の各部門に対するプロジェクト及び調査研究を行っている。これらの成果を生かしての持続可能な開発においても貢献をする団体である。代表の Dr. Korovin はバルト海洋環境保護委員会のロシア統括担当の一人でもある。市民や女性の参加等の草の根の活動に関する研究活動はまだ活発には行っていない。

訪問日 : 2008 年 8 月 12 日

訪問先 : State Scientific Research Institute of Lake and River Fishery

面会者 : Dr. Dmitry Ivanovich IVANOV (Director)

この研究所は、ロシア各地域に点在している漁業に関する調査研究を行っている小規模研究所の 69% をその支部として統括している。これまでは漁業中心の研究が中心であるが、その広いつながりから、漁業と女性のかかわりについてロシア各地の情報を得ることも可能な団体である。

訪問日 : 2008 年 8 月 13 日

訪問先 : ラドガ湖とヴァラーム島 (ラドガ湖に浮かぶ島) 視察

ラドガ湖は、ロシア北西部レニングラード州とカレリア共和国の境界に位置している。ラドガ湖の流出河川であるネヴァ川は、サンクトペテルブルグ市内を流れてバルト海へ流れ込む。湖の中には約 660 の島が点在しており、大きな島には人が住んでいる。ヴァラーム島はその 1 つでありラドガ湖北部に位置する。サンクトペテルブルグ市内からの距離は約 300 km - ツアーバスで湖畔の港まで 2 時間半、そして港から高速船で約 1 時間半 - 片道約 4 時間のところにある。



ヴァラーム島にはロシア正教の大きな教会がある。昔から巡礼地となっており、今も巡礼者が絶えない。信仰のない者でも島や教会に入ることは可能。教会に入る際、ロシア正教の慣わし上、女性はズボン類の着用が不可、髪はスカーフで覆うことが求められる。このため、教会の入り口には貸し出し用の巻きスカート（エプロンのようなもの）と頭にかぶるスカーフが備え付けられており、女性はこれらを身につけてから教会内へ入らなければならない。なぜ女性はスカートとスカーフ着用とされているのかについて、現地でヴァラーム島の現地案内役の人にも尋ねたが、「ロシア正教における慣習」という回答しか得られなかった。このことと、ロシア正教の歴史、この地域における文化的背景上の女性の立場について今後も情報収集と調査を継続する。

2) プスコフ市

訪問日：2008年8月14日

訪問先：プスコフ市

面会者：別添のParticipants List 1 (Pskov)

プスコフの人類学資料館を案内していただいた。Lake Peipsi/Chudskoeに関する GEF プロジェクトを実施されている NGO では、市民参加や意識 WLC15 開催の会場として良い施設があるとして紹介していただいた。確かにプスコフ湖 (Peipsi/Chudskoe につながっている湖) の湖畔にあり、自然環境が豊かな



良い場所ではあるが、過去の WLCs の規模から考えると部屋が小さすぎた。全面会者が非常に協力的であった。英語での伝達能力に長けておられる方もおり、コミュニケーションがスムーズにできた。

プスコフは歴史的建造物など文化遺産が数多くあり中世の面影を多分に残す、落ち着いた感じの街である。近くにプスコフ湖や歴史探訪にもなる場所があるので、WLC15 の会場都市候補としては良い。

<http://dvor.jp/minimaps2.htm>

3) ノヴゴロド市

訪問日：2008年8月15日

訪問先：ノヴゴロド市

面会者：別添のParticipants List 2 (Novgorod)

ネヴァ川 - ラドガ湖水域管理事務所、副所長からとその関連組織・団体の研究者らからイルメン湖 (Lake Ilmen) と彼らの調査研究について説明を聞いた。イルメン湖は支流でラドガ湖とつながっており、その支流を通過してイルメン湖の水はラドガ湖へ流れ込んでいる。非常に浅い湖で、水深は最大となる春季で9m、最も浅くなる秋季では2.5mである。イルメン湖周辺には約56の漁業組合団体が存在している。しかし、ペレストロイカの影響でより多くの経済収入を得ようとした当時の漁師たちによる過度な捕獲のため、生息する魚種が



<http://dvor.jp/minimaps2.htm>

少なくなっており、漁獲高も10年前ほどは年間3,000tあったものが、現在年間2,000tまでに減少している。このため漁業のみで生計を立てることが難しくなりつつあり、廃業する漁師が増えている。現在、組合に登録している漁師の数も約400名から約300名に減少した。この漁業に女性は補助的ではあるが重要な担い手として関わっている場合も多い。当該地域における漁業と女性の関係で今後も調査を継続する。

4) ストックホルム市 (世界水週間)

世界水週間 2008 (World Water Week 2008)
開催期間: 2008年8月17日(日)～22日(金)
開催場所: ストックホルム市内
開催テーマ: Progress and Prospects on Water: For a Clean and Healthy World - with Special Focus on Sanitation



2008年が世界衛生年であることに関して、衛生問題が焦点となった大会であった。以下に参加したセッション及び聞き取りを行った方々を記す。

8月18日

参加セッション

- Conflicts over Water and Water to Solve Conflicts
- Water for Growth and Development and Poverty Alleviation (WfGD)
- The Impact of WASH Interventions on Children
- Improving Local Water Governance and the Access of the Poor to Water: Experiences from Egypt, Jordan and Palestine

聞き取り

- Dr. Sara Ahmed (Gender and Water Alliance: GWA)
- Dr. Janaki (Mother Teresa Women's University)

8月19日

参加セッション

- What Did You Learn in School Today?

聞き取り

- Dr. Kusum Athukorala (Theme Leader, SaciWATERs, Sri Lanka)

8月20日

参加セッション

- Waste as a Resource
- Asia Day: Getting Water Supply and Sanitation to All
- Introduction to the Global Sanitation Fund
- The Joy of WASH in Schools
- Making Regulation Work for the Poor: Accelerating Access to Water and Sanitation

聞き取り

- Dr. Therese Dooley (Advisor, MES UNICEF)
- Ms. Clarissa Brocklehurst (Associate Director, Programme Division, UNICEF)

8月21日

参加セッション

- EU Water Initiative Partners Meeting: Multistakeholder Forum – Part 1
 - Water and Economic, Social and Cultural Rights ? Discussing Nordic Approaches
 - EU Water Initiative Partners Meeting: Multistakeholder Forum – Part 2
 - Monitoring Drinking Water Supply and Sanitation: Moving Beyond 2015, Preparing the Next Generation of Indicators
- 聞き取り
- Project officers from UN-Water

4. 情報収集の成果

ロシア（バルト海沿岸地域）での聞き取りにおいては、その文化的背景についてさらに調べる必要があるため、継続して研究を行う。ストックホルムでの世界水週間の聞き取り及び事例発表などからは、女性は水資源管理と保健衛生の鍵となる存在であり、彼女たちの意識向上への働きかけや教育活動は決して忘れられてはならないものであるという見解を再確認した。女性はプロダクツ・ヘルスに関与することが多く、子どもや家族の健康管理全般や、特に途上国における飲用に適さない水を原因とする5歳以下の幼児死亡率の低下についても、女性たちへの理解と意識の向上は大きな貢献をしていることが明らかであった。彼女たちが自分たちの社会的立場や責任について意識し、自尊心を高めることにより、さらに高循環が生じる。その女性が母親である場合には、その子どもたち、特に女兒、にもモデル的存在となり次世代に受け継がれていくということが明らかであった。

5. ジェンダーをめぐる課題に関する今後の課題

湖沼流域管理とガバナンスという大きな枠組みにおいて、まず女性に焦点をあてて聞き取りなどを行った。次はここから見えてきた女性の意識向上、自尊心、子どもたちのモデルとなることによる衛生管理態度の次世代への継承などと、同時に男性が果たしていた役割との比較を行う。各地域における文化的・社会的背景による違いがあるか、またその違いが湖沼流域管理においてもたらす好影響や好結果、作り出している障壁や問題などについてさらに事例研究を行う。それらの結果をジェンダーの視点を通して考察したい。

6. 今後の調査計画（予定）

次年度は本年に聞き取りを行った前述の方々と継続して連絡をとり、事例の詳細を得る。またその他の地域からも代表的な活動に焦点を当て、衛生だけでなく、女性がかかわった活動の事例を多くあつめて比較研究と考察を進める。それらの結果をもとに、湖沼流域管理とガバナンスにおいて、ジェンダーの視点をとおした女性の参加の在り方を具体的に組み込んでいきたい。

7. 資料

- 資料① プスコフ市会合参加者一覧
- 資料② ノヴゴロド市会合参加者一覧
- 資料③ 各会合参加者及び聞き取りの写真